

UBIC、人工知能関連技術に関する韓国特許を取得

独自開発の人工知能関連技術「Landscaping」に関する 韓国特許取得により、アジア地域における市場優位性を強化

米ナスダックと東証マザーズに上場し、人工知能を駆使したビッグデータ解析事業を手がけるUBIC(本社：東京都港区、代表取締役社長：守本正宏)は、独自開発の人工知能「KIBIT」(キビット)の関連技術となる「Landscaping」(ランドスケイピング)について、大韓民国特許庁より2件の特許査定謄本を受領し、登録のための手続きが完了したことをお知らせします。

なお、UBICは、本技術に関する特許をいずれも日本で既に取得しているため(特許第5567049号、2014年6月27日登録、特許第5526209号、2014年4月18日)、韓国での特許取得が2ヶ国目となります。

【今回の韓国特許の内容】

韓国出願番号：10-2014-7026134

特許登録番号：(登録番号未付与)

第一国出願日：2012年2月29日

韓国出願日：2014年9月18日

韓国出願番号：10-2015-7012205

特許登録番号：(登録番号未付与)

第一国出願日：2012年10月9日

韓国出願日：2015年5月8日

UBICの人工知能「KIBIT」は、独自開発の人工知能関連技術「Landscaping」(ランドスケイピング)を実装しています。これは、ユーザから与えられた教師データに含まれる特徴を人工知能に学習させ、その学習結果に基づいて他のデータを評価させることにより、ビッグデータからユーザの意図に合致する情報を抽出するコア技術です。また、学習量が不足した場合にそのパフォーマンスを向上させるよう再学習させることもできます。

UBICは、人工知能のコアとなるこの関連技術について、韓国で2件の特許を取得しました。これにより、例えば、eディスカバリのレビュー作業においては、人間の専門家である弁護士の暗黙知を人工知能が学習し、多数の調査対象文書を評価することにより、作業効率を劇的に改善する「Predictive Coding」と呼ばれる手法を実現することができます。

UBICは、自社開発したテクノロジーや事業の独自性を表示するブランドなど、無形の財産を「知的財産権」として保護することを重視しています。特に、テクノロジー企業としてグローバルで展開するデータ解析事業を保護するために、世界各国で積極的に特許出願・権利化を推進しており、海外出願・登録比率は全特許の79パーセント(2015年9月4日



現在)を占めます。UBICは、国際訴訟支援を主軸とするビッグデータ解析事業のアジア地域における拡大・競争力強化を目的に、アジア各国における知的財産権取得を今後も継続してまいります。

【UBIC について】 URL: <http://www.ubic.co.jp/>

株式会社 UBIC は、独自開発の人工知能エンジン「KIBIT」により、ビッグデータなどの情報解析を支援するデータ解析企業です。国際訴訟などに必要な電子データの証拠保全と調査・分析を行う e ディスカバリ（電子証拠開示）や、コンピュータフォレンジック調査を支援する企業として 2003 年に創業。自社開発のデータ解析プラットフォーム「Lit i View®（リット・アイ・ビュー）」、アジア言語に対応した「Predictive Coding®（プレディクティブ・コーディング）」技術などを駆使し、企業に訴訟対策支援を提供しています。訴訟対策支援で培った UBIC 独自の人工知能は、専門家の経験や勘などの「暗黙知」を学び、人の思考の解析から、未来の行動の予測を実現、最近では医療やビジネスインテリジェンス、マーケティングなどの領域に人工知能を活用し、事業の拡大を進めています。2003 年 8 月 8 日設立。2007 年 6 月 26 日東証マザーズ上場。2013 年 5 月 16 日 NASDAQ 上場。資本金 1,688,433 千円（2015 年 3 月 31 日現在）。

〈本件に関するお問合せ先〉

株式会社 UBIC 広報担当 池内

TEL: 03-5463-6380

FAX: 03-5463-6345